

2013年度 自己評価（園長編）の結果及び改善策

I 「教育内容」についての評価結果及び改善策

各職員が本園の基本理念を共有し、その目指すところを共有するための様々な提案をしてきた。また、教育内容においては保育全般を「子ども中心主義」で貫き、各行事をはじめあらゆる具体的な教育の基準としている。森のようちえん、こども聖歌隊「スマイル」、生活としての食育「ごはんちゃん」など、本園が柱としているこれらのプログラムも、子どもにとってどのような意味があるのかを、その実施のたびに綿密に検討し、決定し、実行している。その例として、誕生会は、礼拝、お祝い会の二部制とし、子どもたち、保護者たちに提供している。また、これらを実施を通して、反省すべき点が明確になり、次のステップへの土台となっている。また、障がい児のための研修、よみきかせの研修など多くの研修の機会を設け学習を重ねてきた。一方で、職員の負担が増加している点は要反省である。

II 「地域の幼児教育センターとしての役割」についての評価結果及び改善策

今年度も、こども広場「スマイル」を会場に、多くの参加者を得て、こひつじめえめえ広場とひだまり広場を開催し、この地域における子育て支援のセンター的な役割を担ってきた。また、保育終了後の預かり保育も例年は10人未満くらいの園児であったが、今年度は連日20名近い子どもたちが参加している。就業している母親の数は昨年とほぼ変わらないことから、もっと遊びたいという子どもたちの希望が反映しているのではないかと予想している。今後の改善点は職員の専従化である。よりふさわしい預かり保育を子どもたちに提供するためである。

III 「安全管理」についての評価結果及び改善策

本園は幸いにして園庭が建物に囲まれている構造になっているので、部外者が侵入することについては一定の抑止効果があるものと思われる。しかし、門扉の改善、インターホンやモニターの設置など考えられる安全対策は多々あるので鋭意検討すべき課題である。そのため経費について計画性をもっていく必要がある。

IV 「人事管理」についての評価結果及び改善策

園の基本方針とそれに沿った保育計画の達成のために、主任を、クラス担任から外して保育統括を担当させるというかねてからの計画を来年度は実現できることになった。この人事は、幼稚園の運営システムの一つの立ち上げであり、多くの点で個人の能力に依存している本園の現状改善の重要項目の一つである。これにより、他の職員の人財養成と資質の向上が期待できることになる。

V 「財務管理」についての評価結果及び改善策

公認会計士による監査を受け、法的な整備は十分に実施されているものとする。また、書類の分類整備等も整理手順に則って行なっているが、さらに充実していきたい。

VI 「評価と情報の公開」についての評価結果及び改善策

これまで9年間にわたって毎週一回の更新によってホームページを運用し、日々の子どもの様子を保護者に向けて発信してきた。また、各行事についての園の考え方や展開の方法などについて手紙や書類などを通して綿密に連絡している。これは今後とも継続することが重要である。